

ふれあい

主な内容

- 1P. 「ふれあい」創刊100号到達
- 2P. 第100号を記念して 思い出をたどる
- 3P. 戦争の記憶
- 4P. お庭拝見・健康コーナー
- 4P. 部会だより

●発行所/ひたちなか市長堀町3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) ☎029-275-2671 ●発行責任者/坂井 久彦 ●編集/広報委員会

「ふれあい」創刊100号 到達!!



1987.2 ふれあい創刊号
(B5判の小さいサイズ)

今から33年前「一中地区地域のふれあいを広める会」発足と共に創刊された広報紙「ふれあい」。それから年3回一度も休むことなく、紙面サイズ・ページ数・内容・白黒からカラーへと変化しながら、地域のふれあいを大切に地域へ情報を届けてまいりました。

歴代の広報委員と、情報を提供していただいた方、文章を投稿していただいた方々の力のたまものと、感謝しております。



2018.12 96号



1995.7 26号 (紙面サイズを現在のタブロイド判に変更)



1995.3 25号



2009.7 68号 (62号から表題デザイン変更)



2015.12 87号



2003.3 49号
(カラー紙面に変更)

この度、一中地区地域のふれあいを広める会の広報紙「ふれあい」が、創刊号を発行してから100号を迎えました。これまでご協力・ご愛読いただいた皆様から感謝いたします。

1中地区コミュニティセンターが、昭和61年11月にオープンすると同時に同会が発足し、翌年2月に創刊号を発行しました。以来100号を迎えるまで、その時々々の出来事をタイムリーに伝えて、地域の皆さまと共に成長してまいりました。

創刊号等に会のコミュニティづくりとは、地域の方々が力を合わせ「ふれあい」「話しあい」「助けあい」の三つのあいの運動を通して、明るく豊かな地域社会を作っていくことと記載されています。従ってコミュニティセンターの役割は、地域の皆さまが自ら学習する場であり、話し合いや仲間づくりをする場でもあります。

これからも、広報の果たす役割を十分に生かし、会の情報を発信してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



広報紙100号に寄せて

一中地区地域の
ふれあいを広める会
会長 坂井 久彦

満州からの引き上げ (80号)

大平自治会 海野 妙子

私が満州に行ったのは、昭和19年5月、24歳の時でした。満州(吉林)は日本より暑い暮らしができる、父が勝手に結婚を決めてきてしまったのです。

昭和20年7月に長男が生まれ、8月に終戦。乳飲み子を抱えそれからが大変でした。ソ連兵が攻めて来て、若い娘が連れて行かれることもありました。すぐに日本に帰れるはずもなく、残った日本人たちは、小学校校舎に集まり共同生活。日本の船が迎えに来ると知らされたのは、次の年の7月。人が乗っているのを知られないようムシロをかぶせた貨物列車で、2日位かけて吉林から船が来るコロ島まで行きました。コロ島でも船が来るまで、10日近く待たされました。

古い汚い船で九州の佐世保に着きそれから汽車に乗って、何日もかかってやっと中根の実家へ。家族3人が、何とか無事でよく帰って来られたと、今でも思います。(掲載時93歳)

忘れられない戦争の記憶 (91号)

西中根自治会 打越 嘉彦

「日立工機」の前身である「日立兵器」に就職したのは昭和18年、戦時中の事でした。当時「日立兵器」は機関銃等を作っていました。昭和20年になって米軍機による空襲が始まりました。遠くから飛行機の音が聞こえて来ると、2・3機のグラマン戦闘機が日立兵器を狙って低く降りて来て機銃掃射。常磐線沿いの防空壕に向かって逃げる途中、すぐ近くに弾が飛んできて生きた心地がしませんでした。

いよいよ私にも召集令状が来て、水戸37部隊で、3か月訓練して戦地に行く予定でした。たまたま、日立鉱山近くの捕虜収容所で人手が足りず、日立に住んでいた事がある私が手伝いに行くことになりました。昼間は捕虜を連れて、食料になる山菜を取りに山に行きました。実弾入りの拳銃を持ち、とても緊張していたことを覚えています。1週間ほどで水戸の部隊に戻り、程なく終戦。一緒に入隊して戦地に行った人もいたのに、本当に運が良かったと思います。(掲載時92歳)

比島戦線からの生還 (93号)

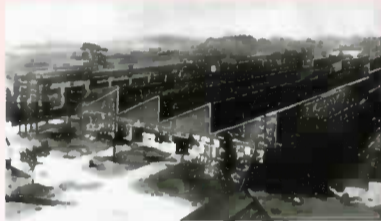
三反田自治会 打越 英雄

娘が一歳になってから、二度目の招集。比島戦線であった。長崎からフィリピンまで、26隻の船団で11万人の兵隊が送り込まれたが、ろくな食糧は与えられずいつも飢えていた。

前線への出撃命令が出た晩、空を仰ぎ「故郷を出てから二年。一歳だった娘は、さぞ大きくなっただろうな。この月が見おさめか」と涙したことを思い出す。月が沈むのを待って後方より敵の兵舎に20mほど近づいた時、敵の方より銃弾。仲間3人が即死。隙を見て敵の兵舎を爆破し、重傷の仲間を背負って戻る途中狙撃され、坂の下まで駆け落ちた。手がザクザクのようになった戦友。血だらけで「水を飲ませてくれ」と頼む姿が忘れられない。何人も赤痢で苦しむ中、私は尿を削って飲んで奇跡的に助かった。その後、比島戦での戦死者49万人を出して敗戦。三反田で、フィリピンから家に帰って来られたのは私一人だった。(掲載時100歳)

戦争の記憶

「心に残る思い出」の中から、語り継ぎたい戦争の体験について一部を抜粋し再掲載しました。



空襲を受けた日立兵器(工機ホールディングスより)

水戸飛行学校航空写真(勝田市史より)

水戸つばさの塔にある戦闘機のプロペラ



※抜粋はできるだけ原文どおりに行いました。

皆様に「感謝」 (94号)

大平自治会 打越 はつ江

大東亜戦争が始まったのは、私が10歳の年。父はその年(昭和16年)の8月1日に、陸軍に入隊しました。中国から各地を回り、昭和20年5月にニューギニアで戦死。今、テレビで映像が流れると「あそこまで亡くなったのか」と父を思います。

戦時中、B29が飛んで来ると土手に掘った防空壕に逃げ込みました。夜、艦砲射撃の爆弾が勝田の工場の方に火を吹いて飛んで行くのを、防空壕の中から見ていました。田畑に、爆弾の殻が落ちていたのを見たことがあります。

父がいなかったため、田畑は近所の人の助けを借りて祖父と母と5人兄弟で耕し、米やじゃが芋・さつまいも等を作りました。祖父が、米を売って那珂湊の女学校に通わせてくれました。

今では、着付けを教えたりカラオケ・銭太鼓を楽しんだりしています。これも父を含めた家族そして皆様のお蔭と「感謝」です。(掲載時86歳)

私の少年時代 (95号)

中根自治会 平沢 猛

昭和4年に生まれ、高等尋常小学校を卒業後に現在ひたちなか海浜公園となっている水戸陸軍飛行学校・射撃場に整備士(軍属)として働き始めました。特攻隊として鹿児島知覧飛行場へ飛び立つ飛行機と飛行士を数多く見送りました。

15歳の時に特別幹部候補生の募集に応募。面接官だったのが中根の安 慶造さん(元勝田市教育委員長)でした。「戦地に行くのを急ぐな」と言われたことを思い出します。

昭和20年1月4日の飛行場を襲った空襲は、午前8時前に非常警報がなって日立方面から200機のグラマン・カーチス戦闘機が空を覆いつくすかと思うほど、飛行場めがけて飛んできました。整備され並んでいた戦闘機30・40機は、一斉射撃を受け飛び立つ前か、飛び立っても直ぐに撃ち落とされました。米軍戦闘機の乗組員の顔もはつきりと確認できる近さで迫っていました。私は九死に一生を得ましたが、小隊長は目の前で、ロケット砲が直撃して頭が飛び散りました。その後、本隊と共に群馬県に移動。飛行機の格納庫を掘っていた時に、終戦となりました。(掲載時88歳)

戦争の苦しみ (96号)

富士山自治会 大川 すみ子

昭和6年に、旧勝田村武田(現ひたちなか市武田)の農家に長女として生まれました。女学校に入学したのは昭和19年、すでに戦争真っ只中で授業はほとんどなく、芋掘りや田植えなど勤勞奉仕の日でした。

日立兵器(日立工機)工場と線路を挟んで向かいの自宅は、昭和20年7月17日夜半から18日未明の兵器工場をねらった艦砲射撃による逸れ弾で、被害を受けました。その時の事は、脳裏に焼き付いています。百雷が落ちたような音と地響きで飛び起ると真昼のような明るさになり、砲弾の炸裂する音。弾は青光りを発しながら飛び回り、地獄に落とされたような思いでした。隣の部屋で寝ていた実母は、飛び回る破片が背中から貫通し出血多量で、なすすべもなく亡くなりました。

あらゆる物が壊されて惨い、戦争は二度として欲しくないと強く思います。(掲載時87歳)

忘れられない戦争の思い出と少年達の夢 (92号)

中根自治会 所 芳光

開戦の昭和16年、私は村松小学校6年生でした。1・2年は祝勝ムードが続きましたが、次第に国防の為の教育へと大きく変化していきました。

この頃の少年達の夢は少年飛行兵(特攻隊)に志願すること。出征する青年も多く、村松の大神宮で祈願して、石神駅(東海駅)まで送りました。

勤勞奉仕の動員もありました。那珂湊地区の翼の塔の西側に小高い山がありますが、元は「コ」の字型に土の囲い堀を積み上げた飛行機格納場所でした。モッコを作り土を入れ、2人でかっさ上げて行きました。

昭和20年2月17・18日、勝田上空に米軍機B29が600機余り襲来しました。7月17・18日の米艦隊による日立・勝田・水戸への艦砲射撃。小雨の夜、弾丸は、防空壕の上を「シューンシューン」飛び散りました。そして30・40人の集団で避難することも何日もあり、米兵に見つかられないよう無言でシーンとした夜が続きました。

8月1日から2日未明にかけて、B29が水戸市内を空襲し焼夷弾を投下、市内8割が焼野原になりました。B29が167機、焼夷弾約1万8千発、1152トンと記録されています。前線飛行場からの軍用機は飛び立つ寸前や途中で襲撃され胴体が真っ二つになり落ちてくるのを数多く見て、悲しみを感じました。英語の本を開くのも憲兵に捕まるので、隠れて勉強しました。民主国家日本の平和のありがたさを実感しています。(掲載時87歳)

お庭拝見 西中根自治会



大きな庭石や石灯籠がお庭を引き立てています。
(海野さん宅)



玄関先で、季節の花々が訪れる人を出迎えてくれます。(安さん宅)

クリスマスローズ・パンジーなど



早春に咲く紅梅と蟬梅が、隣の西中根会館利用者の目を楽しませてくれます。
(横須賀さん宅)



バラ・ゼラニウム・テッセンなど (6月撮影)



健康コーナー

認知症の種類と症状について

南部おとしより相談センター
認知症地域支援推進員 平野 翔太

今回は「認知症」について説明させていただきました。85歳以上の高齢者が3人に1人は認知症になる時代となり、認知症は70種類あると言われています。その中でも特に発症率が高い、代表的な認知症の特徴を説明します。

アルツハイマー型認知症

認知症の中でも最も患者数の多い認知症です。大脳の側頭葉や「海馬」の萎縮から、もの忘れが始まり、次第に進行していきます。初期には体はよく動きますが、いずれ大脳の機能が弱くなり寝たきりになります。

脳血管性認知症

脳の血管が詰まったり破れたりして、脳の一部の機能が低下します。手足の震えや麻痺など運動障害が特徴です。もの忘れなどの症状が出たり消えたりする、またら症状も多くみられます。

レビー小体型認知症

脳の側頭葉・後頭葉の萎縮による機能の低下から、「生々しい幻視や幻聴」が最も目立つ特徴です。手の震えや小刻み歩行、手足のこわばり、表情がなくなるなどのパーキンソン病のような症状のほか、便秘や失禁、立ちくらみなどの自律神経症状を伴うことがあります。

前頭側頭型認知症

高度な判断を行う前頭葉や側頭葉を中心とした脳の萎縮が特徴です。社会のルールに合わせた行動が難しくなり、スーパーで会計前の商品を食べてしまったり、落ち着かなくなったり、同じ行動を繰り返す等の症状があります。一方で、非活動的になり、物事に対して無関心になることもあります。

認知症地域支援推進員は、自宅訪問等で相談を受け、生活や症状に対する助言、必要に応じて病院受診の勧奨をしています。また、認知症サポートー養成講座や認知症ミニ講座を、依頼を受けて開催しています。お気軽にご相談ください。

安全防災部会

1月16日、1中コミセンで27人が参加して安全教室が行われた。警察署交通課の平野秀光さんによる、交通安全についての講話を聞いた。昨年末に起きた、勝田病院近くで横断中の死亡事故。運転席から見て右側から横断中の事故が、8割も多いとのこと。原因は、ライトのロービームは右側が左より低いなど車の構造上、右側の歩行者に気付き難いため。この話が心に残った。十分に注意して運転した。



体育部会

2月23日、第9回ヘルスバレーボール大会を松戸体育館にて開催。各自治会から11チームが参加して、熱戦が繰り広げられた。

- 結果
- 決勝トーナメント戦
 - 優勝 金上チーム
 - 準優勝 富士山チーム
 - 3位 中根Aチーム
 - フレンドリートーナメント戦
 - 優勝 勝倉チーム

令和2年度行事予定

- 4/19 ソフトボール大会
 - 6/7 三世代交流
 - 9/27 ノルディックウォーキング大会
 - 2/21 ヘルスバレーボール大会
 - 3月 ゴルフ大会
- *大会の詳細は、その都度要項を参照します。

部会だより

環境部会

毎年2月に、環境問題などの勉強会を実施している。今年も8日、コミセンで22人が参加し、食品廃棄物について学んだ。形の揃い・鮮度の低下(農産物)、賞味期限が近い(乳製品)、種類過多による売れ残り(パン等)などの理由で、世界中で食卓に上る食物の3〜5割、日本でも年1800万トンが廃棄されている。一方で飢えに苦しむ人々は多い。無駄を減らすには何をすべきか、一人一人が考える良い機会となった。



福祉部会

2月8日、60人の参加で南部おとしより相談センターの講師による「認知症サポーター養成講座」〜認知症を学び地域で支えよう〜が開催された。今回の参加者は、各自治会からの他にチラシを見て来た方もいて、当初の予定より多くなった。認知症は、地域の方々の身近な問題なので、これからも続けていきたい。

次回行事予定

- 7/12 地域福祉講習会



青少年部会

1月11日、中根小学校の児童と保護者約114人が参加し、「もちつきとまゆだまかざり」を実施した。豊作・家内安全などを願う小正月伝統行事の説明を聞いた後、紅・白・緑色の餅を枝にかざりつけた。その後、まゆだまかざりを小学校・コミセン・集落センターに飾った。

次回行事予定

- 7/4 親子 クリーン作戦
- 7/9 少年の主張大会



文化部会

12月14日、1中コミセンで「心のいやしコンサート」が86人参加で開催された。今年「生田流」小林久子社中の皆さんの琴の演奏と、酒井美穂さんのフルート演奏が行われた。会場の皆さんは、一緒に琴やフルートに合わせて四季の歌・夏の思い出などを歌い、和やかなひとときを過ごした。



編集後記

皆様を楽しみにしていた3月の芸能音楽祭が、新型コロナウイルス感染症予防のために中止となり、広報紙に掲載できず残念に思います。なお、「ふれあい」100号発行にあたり、これまで発行に携わっていただいた方々に感謝申し上げます。